

2017年度
事業計画書・予算書

2017年4月1日から

2018年3月31日まで



公益社団法人自動車技術会

目 次

◆	2017年度事業方針	1
事業計画		
1	総 会	3
2	役員会	3
3	調査及び研究（定款第5条1号）	3
4	研究発表会及び学術講演会等の開催（定款第5条2号）	4
5	学術誌及び学術図書の刊行（定款第5条3号）	5
6	人材の育成（定款第5条4号）	7
7	規格の作成及び普及（定款第5条5号）	10
8	内外の関連機関、団体等との提携及び交流（定款第5条6号）	11
9	研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第5条7号）	12
10	その他この法人の目的を達成するために必要な事業（定款第5条8号）	13
	参考：事業区分の説明	14
予算		
	収支予算書	16
	収支予算書内訳表	18

2017年度事業方針

世界に向けて自動車に関する技術の情報発信力を高めるとともに、国際標準の場での発言力を強化すること、及び自動運転を始めとする新技術に関する活動を活発化することを通じて日本のプレゼンスを高め、世界的影響力向上を目指す。

創立70周年を創立100年への『躍進』の節目として本部・支部が連携して会員サービスの更なる拡充に挑戦する。

1. 2017年度事業計画の考え方と基本方針

① 国際・国内標準化活動の推進

- ・TC22（自動車）は、「第10次自動車に関する規格制定・改正長期計画（2016～2020）」、TC204（高度道路交通システム）は、「ITS分野の国際標準化戦略5か年計画2016年」に基づく活動を加速するとともに、日本自動車工業会、日本自動車研究所、関連省庁／団体と連携し、日本の優れた技術（自動運転、電動車、情報通信／情報セキュリティ）を標準化活動を通じて世界に普及させる
- ・自動運転技術に関する標準化活動については、日本が国際議長・幹事国を務めるTC22／SC32（電子・電装）およびコンビーナ（議長）を務めるTC204／WG14（走行制御）を中心に、重要かつ具体的なシステムや技術の標準化項目を欧米に先駆けて積極的に提案する
- ・自動運転標準化研究所（事務局：JASIC）における国際基準調和動向および内閣府実施の戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）等と連携を図る
- ・アジア地域における国際標準化活動連携体制の構築を推進する

② 創立70周年記念事業の実施（本部&支部）

- ・記念式典、特別講演会等を実施する（本部&支部）
- ・各種記念出版物を刊行する（本部&支部）
- ・将来の交通社会・自動車と動力システム・エネルギーに関する2050年の展望を発刊する（本部）
- ・人とくるまのテクノロジー展にて70周年に関連する特別企画展示を実施する（本部）

③ 自動車技術に関する基礎講座の拡充

- ・タイの政府機関と連携しバンコクでの基礎講座開催を定着させると共に、2016年の在タイ日本国大使館の共催を端緒とし、日本政府支援を視野に入れた活動を推進する
- ・基礎講座の拡充に対応できる講師陣の増強を図る
- ・各地の商工会議所もしくは地方自治体との連携による自動車工学基礎講座の国内開催の拡充を図る
- ・自動車の情報セキュリティに関する講座を新規に立上げる

④ 会員満足度の高い刊行物の継続発刊、ならびに論文集事業の強化

- ・会員サービスの一環として論文へのアクセシビリティ向上のための「自動車技術会論文集」公開方法等を抜本的に見直す
- ・英語論文集（International Journal of Automotive Engineering）の国際文献データベースへの

登録を機として投稿件数の増強を図る

- ・新版「自動車技術ハンドブック」の人間工学編（第3分冊）の英語版を発刊する
- ・自動車工学図書のラインナップを強化する

⑤ 次世代エンジニアの育成に向けたモノづくり教育の革新

- ・全日本 学生フォーミュラ大会への自動運転技術の取り込み検討を開始する
- ・中高生向けカーデザインコンテストの認知度を向上し応募者の増加を図る
- ・大学生向け安全技術デザインコンペティションの国際大会へ代表チームを派遣する
- ・第15回 全日本 学生フォーミュラ大会を開催する
- ・中高生向けの新たな教育プログラムを検討する

⑥ 最新自動車技術の継続発信と技術者交流の促進

- ・春季学術講演会の国際化検討を継続する
- ・2050年を見据えた技術ロードマップを構築する
- ・人とくるまのテクノロジー展の名古屋開催を定着させる
- ・新車技術セミナーを継続して開催する
- ・既存の基礎・中級講座、シンポジウム・講習会を体系的に把握し、新分野や新レベルの講座・講習会の企画を推進する

⑦ 新たな会員層の取り込みを目指す会員サービスの拡充

- ・支部の学生会員増強につながる活動を企画・推進する（サービス向上）
- ・女性技術者、生産技術者への交流機会提供やサービスの拡充を推進する
- ・会員情報システム・委員情報システムの機能拡張、及び支部ウェブサイトのリニューアルを実施する（利便性・情報閲覧性の向上）
- ・全日本 学生フォーミュラ大会に参加する学生にとって有益な技術情報・ノウハウ・講座映像のネット配信を拡充する（eラーニング）

2. 予算編成の基本方針

- ・公益法人に求められる財務3要件である、①収支相償、②公益目的事業比率50%以上③遊休財産額の保有制限に対する率100%以内を満たす予算を策定する
- ・新規会員獲得及び既存会員の満足度向上を意識した支出・投資予算を策定する

1 総 会

第7回定時総会を2017年5月25日（木）パシフィコ横浜（横浜市）において開催する。予定議案は次のとおり。

議決事項 2016年度決算報告の件、理事交代の件、名誉会員推薦の件

報告事項 2016年度事業報告の件、2017年度事業計画の件、2017年度予算の件

2 役員会

2.1 理事会を4回開催する。

2.2 会の運営を円滑に図るため会務担当理事会を3回、各支部間及び本部との調整を図るため支部担当理事会を2回開催する。

3 調査及び研究（定款第5条1号、公益目的事業1）

技術会議では、最新の技術課題に取り組み、部門委員会活動に反映するとともに、その活動成果を学術講演会、フォーラム、シンポジウム・講習会および国際会議などを通じて社会に広く情報発信し、自動車技術の更なる進歩向上に寄与する。

70周年の企画として、各部門委員会が2011年度に策定した技術のロードマップを見直し改訂版を作成する。2018年度にウェブ上で公開の予定。

共同研究センターでは、産学官連携事業、他学協会との連携事業、受託事業を推進し、研究・技術に対する提言を行う。

3.1 技術会議

(1) 技術会議

技術の向上を目指す各種活動の企画、推進、調整のための議論を行い、技術会議組織の適正な運営を図る。

(2) 部門委員会・特設委員会

2017年度より、共同研究センターから移行して新しく2部門委員会、2特設委員会を設立。

45部門委員会、2特設委員会が各種技術課題に取り組み、活動成果を会員・社会に還元する。

① 2017年春季大会において、オーガナイズドセッション、ならびにフォーラムを開催する。

② 2017年名古屋展示会において、フォーラムを開催する。

③ シンポジウム・講習会を開催する。

④ 公開委員会の開催、会誌記事掲載、ならびに技術報告書の発行他を行う。

(3) 学術講演会運営委員会

春季・秋季の学術講演会の活発化を図る。

(4) 国際会議等への対応

下記委員会組織により2017～2019年度に開催する国際会議の開催準備を進める。

<主催>

- ① FAST-zero'17 実行委員会 (2017年9月18日～22日 春日野国際フォーラム 奈良)
- ② SETC2017 実行委員会 (2017年11月15日～17日 ジャカルタコンベンションセンターインドネシア)
- ③ EVTeC2018 論文委員会 (2018年9月30日～10月3日 神戸国際展示場 神戸/EVS-31とテクニカルセッションにおいて共催)
- ④ 2019P, F&L 実行委員会 (2019年8月予定 京都予定)
- ⑤ SETC2019 実行委員会 (2019年予定 場所未定)

FAST-zero: Future Active Safety Technology toward zero traffic accident
P,F&L: Powertrains, Fuels & Lubricants Meeting, SETC: Small Engine Technology Conference
EVTeC: International Electric Vehicle Technology Conference
EVS: Electric Vehicle Symposium & Exhibition

(5) 他学協会との連携

- ① 自動車用材料共同調査研究会 (日本鉄鋼協会)

3.2 共同研究センター

(1) 委員会

下記6委員会により活動を推進する。活動成果は、学術講演会やフォーラム、または技術報告書等により会員・社会に還元する。

- ① 将来の先進安全技術に関する人間受容性検討委員会
- ② 交通事故自動通報による救急医療改革推進に関する委員会
- ③ 国際標準記述によるモデル開発・流通検討委員会
- ④ 動力伝達システム共同研究推進委員会
- ⑤ 自動運転委員会
- ⑥ サイバーセキュリティ講座企画委員会

(2) 他学協会との連携

2017年度は無。

3.3 研究調査事業

技術会議及び共同研究センター傘下の9委員会が11テーマで実施 (総額予算 8,086 千円)。

3.4 受託事業

技術会議傘下の委員会により以下を実施する。

- (1) SAE World Congress 等海外におけるPM研究動向の最新研究調査

(大気環境技術・評価部門委員会/受託先: 日本自動車工業会)

PM: Particulate Matter

4 研究発表会及び学術講演会等の開催

(定款第5条2号、公益目的事業2・3・自動車技術展は収益事業)

春季及び秋季大会は、学術講演会を中心に多くの技術者の交流の場とする。「人とくるまのテクノロジー展」は5月春季大会時の横浜、並びに6月名古屋の年2回の開催とする。

4.1 春季大会

2017年5月24日(水)～26日(金)にパシフィコ横浜(横浜市)で開催する。学術講演会のほか、人とくるまのテクノロジー展 2017 横浜、各種フォーラム、女性技術者交流会を開催する。また、創立 70 周年記念催事として式典・特別講演・祝賀パーティを開催する。

4.2 秋季大会

関西支部の協力を得て、2017年10月11日(水)～13日(金)に大阪国際会議場(大阪市)で開催する。学術講演会、Technical Review、市民公開特別講演、産学ポスターセッション、学生フォーミュラ車両展示、秋季大会パーティ(技術者交流会)を実施する。

4.3 自動車技術展

① 人とくるまのテクノロジー展 2017 横浜 (2017年5月24日(水)～26日(金))

パシフィコ横浜(横浜市)

創立 70 周年に因んだ特別企画として「社会が変わる、技術が変わる、くるまが変わる」をテーマに講演会、技術展示を実施する。また、最新車の開発秘話などについて開発責任者が語る特別講演を実施する。屋外では最新車の公道試乗会を実施する。

② 人とくるまのテクノロジー展 2017 名古屋 (2017年6月28日(水)～30日(金))

ポートメッセなごや(名古屋市)

特別企画として「モノづくりニッポン、進化を支える“知恵、技、匠”」をテーマに技術展示を実施する。創立 70 周年に因んだ特別講演/技術展示を実施する。また、最新車を取り上げ、講演会場に展示した車両やその構成部品等と共に開発責任者らが語る特別講演を実施する。屋外では最新車の公道試乗会やシティコミュータの構内試乗会を実施する。

4.4 シンポジウム・講習会

技術会議傘下の各委員会企画により 23 回開催する。

4.5 国際会議

専門技術分野の国際会議を以下のとおり開催する。

・ International Symposium on Future Active Safety Technology toward zero traffic accidents 2017 (FAST-zero'17)

2017年9月18日(月)～22日(金) 春日野国際フォーラム(奈良)

・ Small Engine Technology Conference 2017 (SETC 2017)

2017年11月15日(水)～17日(金) ジャカルタコンベンションセンター(インドネシア)

※本会主催でインドネシアにて開催。

5 学術誌及び学術図書の刊行(定款第5条3号、公益目的事業1・2・3)

自動車に関する学術や産業の振興への寄与のために、各種出版物の刊行によって自動車技術情報を広く会員、および国内外に発信する。

5.1 資料収集・調査研究に関する学術誌の発行(公1)

- (1) 会誌「自動車技術」
 - ・各号特集テーマを設け（8月年鑑号を除く）、最新の技術動向に沿ったタイムリーな記事を掲載し、毎月発行する。
 - ・海外への技術情報発信の一環として、8月年鑑号英訳版のウェブサイト公開を継続する。
 - ・創立70周年記念企画として「クルマづくりの心意気」を連載する。
- (2) 「自動車技術文献抄録誌」を毎月発行し、技術者・研究者に海外文献を中心とした有益な情報を提供する。
- (3) 「JSAE エンジンレビュー」を電子版不定期刊行物として継続発行する。
- (4) 「日本の自動車規格（DVD-ROM版）」の日本語版、および英語版を発行する。
- (5) 第67回自動車技術会賞技術開発賞受賞者のインタビュー集である「オートテクノロジー2018」を発行する。
- (6) 自動車技術者・研究者から出版企画を募集して発行する「自動車技術叢書」として、「自動車の空力技術（仮）」を発行する。
- (7) 「人とくるまのテクノロジー展」と連動した記事広告誌「テストングツール最前線」および「次世代自動車技術最前線」を発行する。
- (8) 創立70周年記念事業として、自動車メーカ14社各社を代表するキーテクノロジーの開発担当者へのインタビュー形式による「日本の自動車70年～わがメーカの技術を決定した開発と目指すもの～」、及び「2050年の自動車はこうなる～社会と交通システム、自動車用動力システム～」を発行する。
- (9) 「高翔」（関東支部企画・編集）、「宙舞」（中部支部企画・編集）、「関西支部ニュース」（関西支部企画・編集 内1回は70周年記念号）を発行する。

5.2 研究発表に関する学術誌の発行（公2）

- (1) 「自動車技術会論文集」
 - ・冊子及び CD-ROM の形式で6回発行する。
 - ・公開方法に関し、J-Stage を活用した公開に切り替える。
- (2) 「International Journal of Automotive Engineering : 英文ジャーナル」

公開を本会ウェブサイトから J-Stage に切り替えたことで国内外での一層の認知度向上を期待、投稿件数増へとつなげる。
- (3) 春季・秋季大会学術講演会講演予稿集（DVD）、およびフォーラム資料を発行する。学術講演の英文抄録である Summarized Paper はウェブサイトで引き続き無料公開する。
- (4) 国際会議「FAST-zero'17」及び「SETC 2017」、ならびに「第28回内燃機関シンポジウム」の文献を発行する。

5.3 人材育成に関する学術図書の発行（公3）

- (1) 「国際標準記述によるモデル開発・流通検討委員会」の編著による「自動車システムのモデルベース開発入門」を発行する。
- (2) シンポジウム及び講演会資料を発行する。
- (3) 「ドライブレコーダは見た, Vol.4」を制作し、発行する。

(4) 関西支部学自研機関誌「関西支部学自研ニュース」(2回)、九州支部学自研機関誌「Eternal Car Life Vol.20」を発行する。

5.4 広報関連他の発行

- (1) 「第15回全日本 学生フォーミュラ大会レビュー」(ウェブ版)を発行する。
- (2) JSAE メールマガジン(インターネット配信)を週1回発行する。
- (3) 国内への広報活動としてプレスリリースを発行すると共に、ニュースレターJSAE Eyeの日英版をそれぞれ年4回発行して国内外への広報に努める。
- (4) 支部日より(北海道支部1回)、行事案内(関東支部6回、関西支部7回)、支部ニュース(中部支部6回)を発行する。

5.5 その他

- (1) 創立70周年記念事業として10年ぶりに改訂を行った新版「自動車技術ハンドブック」は、第1分冊～第10分冊の発行が完了したので、引き続き販売促進を行う。
- (2) 創立70周年記念企画として、過去の会誌記事から抜粋しウェブサイトで一般公開する。

6 人材の育成(定款第5条4号、公益目的事業3)

次世代エンジニアの育成の活動として、小学生向けに「キッズエンジニア」、中高生を対象とした「次世代カーデザイナー人材育成プログラム(学習・コンテスト・進路案内)」、大学生向けに「全日本 学生フォーミュラ大会」等ものづくり教育の場を提供する。学生自動車研究会活動を全国で展開し、工学・工業への興味を喚起し次代を担う技術者養成に努める。また、技術者認定制度及び各種講座・講習会の開催により、技術者の継続能力開発(CPD)を支援する。

6.1 講習会

2017年7月、9月、12月及び2018年1月に技術会議傘下部門委員会企画の講習会を開催する。

6.2 自動車工学基礎講座

2017年8月、9月に名古屋、12月に関西、2018年3月に東京で開催する。また、タイ国内で自動車工学基礎講座を秋頃に開催する。その他、地方自治体や賛助会員向けの講座も要望に応じて開催する。

6.3 自動車工学中級講座

中堅技術者を対象とし、技術者育成委員会及び技術会議傘下部門委員会で企画・実施する。

6.4 技術者育成講座

新入会員や学生会員を対象とし、自動車技術会の活動に参加する契機となることを目指した講座を東京、名古屋において企画・実施する。

6.5 サイバーセキュリティ講座

自動車のサイバーセキュリティに関する講座を2017年9月に開催する。

6.6 自動車開発・製作セミナー

学生フォーミュラカーを題材とした自動車開発・製作セミナーを継続開催すると共に、学生にとつ

て有益な情報を配信する。

6.7 支部の講演会・見学会等

- (1) 北海道支部：講演会3回（地方講演会、共催を含む）、見学会1回、市民講座1回を開催する。
- (2) 東北支部：講演会2回、見学会2回（関東支部との共同企画含む）社会貢献活動として市民講座6回を開催する。
- (3) 関東支部：講演・講習会12回、見学会12回、支部社会活動として公開講座を開催。学生の国際交流活動を継続実施する。技術者交流会を開催する。社会貢献活動として第8回群馬県高校生電気自動車大会に参画する。
- (4) 中部支部：見学会12回、技術講習会5回、技術者懇談会3回、技術交流会2回、車の挙動体験会1回を開催する。
- (5) 関西支部：見学会6回、講演会1回、技術者懇談会1回、技術者交流会1回を開催する。
- (6) 九州支部：関西支部との合同例会1回、講演会2回、見学会2回、市民講座3回を開催する。

6.8 技術者・研究者の認定制度

自動車エンジニアレベル認定において技術的な能力開発や実務経験の実績により技術レベルを認定する。

6.9 第15回全日本 学生フォーミュラ大会—ものづくり・デザインコンペティション—

2017年9月5日（火）～9日（土）の5日間にわたってエコパ（小笠山総合運動公園、静岡県掛川市／袋井市）で開催する。

6.10 キッズエンジニア2017

2017年8月4日（金）～5日（土）に名古屋市国際展示場（ポートメッセなごや、名古屋市）で開催する。

6.11 支部の小学生プログラム

- (1) 東北支部：クルマへの関心とものづくりへの興味を高める目的として「キッズエンジニア in 東北2017」を1回（支部主催で開催、仙台市科学館・協力企業・本部と連携）と「自動車の将来と電気自動車の構造」、「第3回走るペーパーカーの製作及び走行距離競技大会」を各1回開催予定。
- (2) 関東支部：「小学生くるま未来体験教室」を6回開催。
- (3) 中部支部：「キッズ・モノづくりワンダーランド」を10回開催する。
- (4) 関西支部：「キッズエンジニア」を1回開催する。

6.12 学生生活動企画委員会

全日本 学生フォーミュラ大会を始めとする学生生活動の支援、ウェブや SNS (Facebook) による学生向け情報発信などの活動を行う。

6.13 APAC-19 上海大会 (2017年10月24日～26日、上海、中国)

学生、或いは若手エンジニアを対象プログラムに派遣する。

6.14 学生安全技術デザインコンペティション

2017年6月にデトロイトで開催される世界大会へ日本代表チームを派遣する。また、日本大会を2018年3月に開催する。

6.15 中高生等を対象とした「次世代カーデザイナー人材育成プログラム」

中高生等を対象として、創造的なカーデザインの魅力を喚起し、職業意識を目覚めさせる機会を提供することを目的とした人材育成プログラムとして、ウェブサイト上に学習プログラムと進路案内を公開、及び第6回カーデザインコンテストを実施する。(企画：デザイン部門委員会)

6.16 学生自動車研究会 (以下学自研)

(1) 北海道支部

学生フォーミュラ車検講習会1回、学生フォーミュラ合同試走会1回、全日本学生フォーミュラ大会参戦報告会1回、参与会議3回、夏季ドライビングコンテスト1回、雪氷路セーフティドライビングコンテスト1回開催。第15回全日本学生フォーミュラ大会に参加予定。

(2) 東北支部

支部学自研大会1回、運営委員会3回、学自研参与会2回、特別講演会1回、見学会1回、第36回タイヤ研修会、第27回自動車技術独創アイデアコンテスト1次・2次、第28回手作り自動車省燃費競技大会、第32回自動車整備コンテストを各1回開催。第3回学生EVフォーミュラ支部走行会1回開催、第15回全日本学生フォーミュラ大会へ2チーム参加予定。

(3) 関東支部

支部学自研大会1回、支部学生委員会12回、支部学術研究講演会・特別講演会1回、見学会・講習会等を4回開催。学生フォーミュラ活動を積極支援し第15回全日本学生フォーミュラ大会に参加。並行してフォーミュラ試走会を支部合同で1回、支部単独で1回開催。

(4) 中部支部

参与会2回、学生委員会4回、支部学術研究講演会1回、新入生ものづくりセミナー1回、自動車テクニカルセミナー2回、三支部合同試走会1回、北陸地区走行会1回、走行技術トレーニング5回(6日間)、FSAE技術交流会1回、基礎技術交流会2回、社会人技術者との懇談会1回、中部支部交流会1回、引継会1回を開催。また、中部支部社会貢献事業への支援を実施。

(5) 関西支部

参与会1回、運営委員会4回、講演会4回、見学会8回、キッズエンジニア、危険回避運転講習会、新車試乗技術説明会、卒業研究発表会、学自研入会説明会各1回開催。支部学自研ニュース発行2回。学生フォーミュラ関係は運営委員会を11回開催し、講習会・勉強会計8回、報告会4回、試走会2回、走行会を1回開催。

(6) 九州支部

支部学自研総会1回、研究発表会1回、講演会1回、見学会2回、安全運転講習会1回及び懇親会1回開催。第15回全日本学生フォーミュラ大会へ6校がエントリー予定。学生フォーミュラ試走会3回を開催。学自研機関紙発行1回。

7 規格の作成及び普及（定款第5条5号、公益目的事業1）

ISO/TC22（自動車）とISO/TC204（高度道路交通システム）の活動が活発化している中、規格委員会（ISO/TC22）は「第10次自動車に関する規格制定・改正長期計画（2016年度～2020年度）」、ITS標準化委員会（ISO/TC204）は「ITS分野の国際標準化戦略5か年計画（2017年）」に基づく活動を加速するとともに、日本自動車工業会、日本自動車研究所、関連省庁／団体と連携し、日本の優れた技術（自動運転、電動車、情報通信／情報セキュリティ）について、標準化活動を通じて世界への普及促進を図る。特に、自動運転の国際標準化に関して、自動運転標準化検討会において両委員会の連携を図るほか、自動運転基準化研究所において基準と標準の連携を図る。

7.1 規格委員会（自動車分野）

2015年度に策定した「第10次自動車に関する規格制定・改正長期計画（2016年度～2020年度）」に沿って、自動運転、電動車、情報通信／情報セキュリティを中心に、より戦略的な標準化活動を推進するとともに、長期計画の作業項目の進捗状況を把握するなどフォローアップを行う。

(1) 国際標準化活動（ISO/TC22）

- ① ISO/TC22/SC32（電子・電装分野）議長・幹事国およびSC38（モーターサイクル・モペット）議長国としてリーダーシップを示していく他、各SCおよび傘下のWGにエキスパートを積極的に派遣し、電子技術、安全・環境・二輪分野などにおける新規作業項目提案（NWIP）を実施する等国際標準化活動に積極的に参画する。
- ② 日本自動車工業会（国際標準検討会・自動運転検討会）、日本自動車研究所（ISO/TC22/SC37）などと連携し、新規領域、受け皿のない領域等について情報共有や課題発掘を行っていく。
- ③ ISOエキスパート、ISO対応委員会委員などを対象にISO研修会を開催する。
- ④ 日欧米の交流を継続するとともに、アジア地域の標準化活動を促進させるために日中間の連携を図る。

(2) 国内標準化活動

- ① JASO 制定3件・改正13件、テクニカルペーパー制定2件・改正2件、JIS 制定1件・改正6件及び標準化調査7件を行う。
- ② JIS・JASO 原案の質の向上を図る為、JIS・JASO 原案を作成する委員会委員を対象に規格原案作成講習会を実施する。
- ③ ISO・JIS・JASO の規格活動への理解促進を図るため、自技会イベント等における規格活動紹介や広報メディア作成などによる広報活動を進める。

7.2 ITS 標準化委員会（高度道路交通システム分野）

2016年度に策定した「ITS分野の国際標準化戦略5か年計画（2017年）」に沿って、特に日本が議長国であるWG3（ITSデータベース技術）とWG14（走行制御）において、自動運転などに関する国際標準化活動を戦略的に推進する。

(1) 国際標準化活動（ISO/TC204）

- ① 第49回（於パリ、フランス）および第50回（於未定、北米）のTC204総会への日本代表団

派遣、WG14国際会議への専門家派遣を行い、日本の貢献をより高めていく。

- ② TC22（自動車）や ETSI（欧州電気通信規格協会）など関係団体と連携しつつ WG14の標準化作業項目を進める。
- ③ 欧米の動向に関して情報収集や分析を行う。特に、新たな標準化要請（Mandate/546）が発出された欧州の動き（Urban ITS）に注目する。
- ④ アジア地域で TC204シンポジウムを実施し、TC204活動への積極的な参画を促す。

(2) 国内標準化活動

- ① ITS 標準化委員会・技術委員会について、本会が事務局として活動する。分科会は、本会（WG14）のほか、日本自動車研究所（WG1）、日本デジタル道路地図協会（WG3）、UTMS 協会（WG4、9、10）、道路新産業開発機構（WG5、7、18）、国土技術研究センター（WG8）及び電子情報技術産業協会（WG16、17）が分担して事務局を担当する。
- ② 自動運転に関する国内開発動向を把握するとともに、日本自動車工業会をはじめとする関係団体、国家プロジェクトである戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）とも連携を図る。
- ③ ITS 分野の国際標準化戦略 5ヶ年計画（2017年）のメンテナンスを行う。
- ④ ISO/TC204の専門家会議を開催する。

8 内外の関連機関、団体等との提携及び交流

（定款第5条6号、公益目的事業2）

従来活動を継続推進する一方、関連学協会やアジア各国との連携をさらに強化し相互の利益を図る。

8.1 国内関連機関及び団体との連携

- (1) 日本学術会議の協力学術研究団体として学術振興に努める。
- (2) 日本工学会の加盟団体として他学会との連携に努める。
- (3) 経済産業省の日本工業標準調査会（JISC）の自動車他技術専門委員会に委員を派遣し積極的に参画する。
- (4) 各国国土交通省が主催する第25回 ESV 国際会議（2017年6月デトロイト）で開催される「第7回学生安全技術デザインコンペティション」の日本代表チームを選考、派遣する。
- (5) 本会が幹事となり、日本機械学会と第28回内燃機関シンポジウムを共催する。
- (6) 日本自動車工業会国際標準検討会、電動車両国際標準検討会および自動運転検討会と連携し情報交換を行い、標準化活動を実施する。
- (7) 日本鉄鋼協会と材料部門委員会が共同設置した「自動車用材料共同調査研究会」の活動を引き続き推進する。

8.2 国外関連機関及び団体との連携

- (1) 2017年9月に開催する第15回 全日本 学生フォーミュラ大会—ものづくり・デザインコンペティション—に、アジアなど海外からの参加を得る。
- (2) 全日本 学生フォーミュラ大会の機会を利用して各国との交流促進を図る。
- (3) 創立70周年記念事業として各国自動車技術会会長を2017年春季大会へ招聘し、多国間交流を促

進する。

- (4) 中国自動車工程学会年会におけるフォーラム開催など、中国自動車工程学会 (SAE-China) との連携を推進する。
- (5) 韓国自動車工学会年会におけるフォーラム開催など、韓国自動車工学会 (KSAE) との連携を推進する。また、包括協力協定に基づき、双方の年次大会の PR を実施する。
- (6) 2017年秋頃に第3回自動車工学基礎講座 in タイを NSTDA (タイ国立科学技術開発庁)、並びに在タイ日本大使館、東京工業大学と共催する。
- (7) FISITA の執行役員会並びに理事会に副会長、理事を派遣して協力する。
- (8) APAC-19 (2017年10月、上海) 開催に協力する。
- (9) FISITA Asia Members Meeting、APAC Members Meeting、アジア SAE 事務局会議などの開催を通じて、アジア地域の連携を強化する。
- (10) FAST-zero' 17 (2017年9月18日～22日、奈良) を開催する。
- (11) SETC 2017 (2017年11月15日～17日、ジャカルタ) を開催する。
- (12) ドイツ自動車工業会 (VDA)、SAE International、中国自動車技術研究センター (CATARC) と国際標準化活動における意見交換会を実施する。
- (13) 国際標準化活動におけるアジアの仲間づくりとして、アジア地域で TC204 (ITS) シンポジウムを開催する。

ESV: International Technical Conference on the Enhanced Safety of Vehicles

FISITA: International Federation of Automotive Engineering Societies

APAC: Asia Pacific Automotive Engineering Conference

SETC: Small Engine Technology Conference

FAST-zero: International Symposium on Future Active Safety Technology - toward zero traffic accidents

SETC: Small Engine Technology Conference

9 研究の奨励及び研究業績の表彰 (定款第5条7号、公益目的事業3)

自動車技術会賞等各賞の社会への周知を図り、賞の価値を高めていく。

9.1 技術者・研究者対象の研究業績等の表彰

- (1) 自動車技術会賞：学術貢献賞、技術貢献賞、浅原賞学術奨励賞、浅原賞技術功労賞、論文賞、技術開発賞の各候補者の積極的な募集を図り、各賞の主旨に相応しい優秀な業績に対し表彰を行う。
- (2) 技術教育賞：優れた人材育成活動を行った個人若しくはグループを表彰する。
- (3) 優秀講演発表賞：春季・秋季学術講演会の優秀講演者を表彰する。
- (4) 技術部門貢献賞：技術会議の各部門委員会の活発な活動を行った個人を表彰する。
- (5) 自動車技術会フェロー：本会活動への多大な貢献をした個人に授与する。
- (6) 標準化活動功労感謝状：標準化活動向上に顕著な貢献があった個人に感謝状を贈呈する。
- (7) 編集・出版功績感謝状：本会の出版物の編集・出版活動に顕著な貢献があった個人・団体に感謝状を贈呈する。

- (8) 学術講演会運営功績感謝状：学術講演会の運営に顕著な貢献があった個人・団体に感謝状を贈呈する。
- (9) 技術者育成功績感謝状：本会の技術者育成活動に顕著な貢献があった個人・団体に感謝状を贈呈する。

9.2 学生対象の業績表彰

- (1) 大学院研究奨励賞：優れた研究を行った大学院修了予定者を表彰する。
- (2) 学自研功労賞：学生自動車研究会の活動で特に功労のあった学生を表彰する。

10 その他この法人の目的を達成するために必要な事業

(定款第5条8号)

公益法人として会務運営について厳格に関係法令を遵守し、また社会倫理に適合した公正で誠実な活動を推進する。

本部・支部ウェブサイトの利便性向上及び掲載情報の充実と共に、国内外への情報発信・広報活動に努める。

新たな会員層の取り込みを目指す会員サービスの拡充をはかり会員増強に努める。

- 10.1 法令、ならびに定款・規則を遵守した会の運営を行う。また、総会、理事会の運営を適正に行い、今後予定される国からの監査にも問題なく対応できるようにする。
- 10.2 公益社団法人として必須の①収支相償、②公益目的事業比率50%以上、③有給財産額の保有制限の充足を安定的に達成していける事業構成とする。
- 10.3 創立70周年記念事業を推進する。
- 10.4 会員増と新事業展開に対応するため本部・支部事務局体制を検討する。
- 10.5 将来ビジョンの策定を進める。
- 10.6 システム構築
 - (1) 本部・支部ウェブサイトのリニューアルを進める。
 - (2) 本会内業務支援システムのメンテナンスとリニューアルを検討する。
- 10.7 支部総会・役員会

- (1) 北海道支部：支部通常総会1回、特別講演会1回、支部理事会2回を開催する。
- (2) 東北支部：支部通常総会1回、特別講演会2回、支部理事会3回、学自研参与会2回を開催する。
- (3) 関東支部：支部通常総会1回、顧問会1回、理事会3回（内、顧問同席2回）、担当理事会30回を開催する。
- (4) 中部支部：支部通常総会1回、理事会2回、担当理事会2回、担当幹事会4回、常任幹事会2回、各事業別企画委員会を開催する。
- (5) 関西支部：支部70周年記念総会1回、理事会2回、合同会議2回、各事業別企画委員会4回、編集委員会4回を開催する。会員増強のため、会員・魅力拡大会議3回を開催する。
- (6) 九州支部：支部定時総会1回、理事会2回、常任理事会4回を開催する。

参考：事業区分の説明

公益目的事業 1 資料収集事業・調査研究事業

専門家による研究・調査に関する委員会活動並びに規格・標準化の推進及び普及活動を通して、自動車に係わる技術情報を調査・収集・選定・提供することにより、自動車の環境性能、安全性能及び利便性の向上に寄与する事業

- ・ 学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：自動車技術、抄録誌、諸元表等）
- ・ 調査及び研究（定款 5-1）
- ・ 規格の作成及び普及（定款 5-5）

公益目的事業 2 研究発表事業・表彰事業

国内外の技術者及び研究者に対して研究成果発表の機会を提供し、技術情報及び技術者・研究者間の交流を促進することにより、技術及び研究レベルの向上を図り、自動車技術の発展に寄与する事業

- ・ 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：春季大会、秋季大会）
- ・ 内外の関連機関、団体等との提携及び交流（定款 5-6：FISITA、APAC、SAE-Intl.等）
- ・ 学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：自動車技術会論文集、IJAЕ 誌、予稿集等）

公益目的事業 3 人材育成事業

児童、学生及び技術者の各層に対応した教育プログラムを提供すると共に、教材の開発、優秀技術者の表彰及び資格付与を行うことにより、人材の育成を図る事業

- ・ 人材の育成（定款 5-4）
- ・ 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：シンポジウム等）
- ・ 学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：ハンドブック、用語辞典、教育図書等）
- ・ 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款 5-7）
- ・ 支部活動（定款 5-8：講習会、見学会等）

収益事業 展示会事業

自動車に係わる技術者及び研究者を対象として、最新技術に関する製品展示及び技術発表を行い、技術及び研究レベルの向上に寄与するとともに、利益を公益目的事業の実施に資する事業

- ・ 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：展示会）

その他事業 会員事業等

各地域での会員間の交流を促進し、事業活動の活性化を図ることにより、自動車技術会の活動基盤の強化に寄与する事業